



補聴器適合(補聴器フィッティング)については、これまでも何度かカスタネット通信や壁のポスターなどで、『補聴外来ではどのようなことをしているのか』、『補聴外来にはどれくらいの期間、何回くらい通うのか』、『補聴器の価格はどれくらいか』といったことをご紹介してきました。今回は少し異なる視点で、補聴器適合の段階で難聴のある人が考える(悩む)ことは何か、ということを考えていきたいと思います。

補聴器適合

補聴器適合はペイシェント・ジャーニー(カスタネット通信2022年4月号参照)のなかのひとつの段階である『聴覚リハビリテーション(カスタネット通信2022年5月号参照)』の『実施』の部分に含まれます。

補聴器適合は、家庭や職場で補聴器を試した結果を『試聴の記録』や面接で評価する方法(主観的評価)と、補聴器から適切な音が耳に入っているかを防音室で検査する方法(客観的評価)の両方を使って、聞こえや生活状況に合ったより良い補聴器を探し出す作業です。

多くの方にとって、補聴器試聴は初めての経験だと思います。自分に合った補聴器を選択するまでにはまるで迷路のようにいくつもの岐路が待ち構えています。

試聴
開始!



補聴器
決定!



補聴器の試聴を始めると、①機種、②価格帯、③形、④電源、⑤装用耳など、考え、選択しなければならないことがたくさんあります。みなさんが最善の選択ができるよう、袋小路に迷い込まないよう、先導するのが言語聴覚士の役目です。次のページでは、①～⑤についてどう考えるかを記しました。

岐路 ① : 機種

補聴器の機種によって音声の処理方法や雑音の抑制方法が異なります。どのメーカーの補聴器が良いかではなく、個々の聞こえにくさや環境にどれが合うかが重要です。自分にとってどの機種の音がことばを聞き取りやすいか、試聴の上、選択します。

岐路 ② : 価格帯

どのメーカーも松竹梅の価格帯の補聴器を用意しています。30万円の補聴器が、15万円の補聴器の2倍聞き取りやすいか、というところではありません。どの補聴器も音を強くして耳に届ける、強すぎる音は入れない、雑音は抑制するといった機能は備えています。ご自身の生活環境(会議が多い、テレビを見て過ごすことが多い、話し相手は家族中心など)に応じた機能を備えた補聴器を選びましょう。

岐路 ③ : 形

多くの方が耳かけ型か耳あな型の補聴器を選択します。コロナ禍ではマスク・眼鏡と耳に掛けるものが多く、耳あな型が多く選ばれるかなと予想したのですが、思いの外、耳かけ型を選ばれた方も多くいらっしゃいました。装用に慣れてしまえば様々なタイプがある耳かけ型も使い勝手、装用感が良いということなのでしょう。

岐路 ④ : 電源

これまではボタン電池式が主流でしたが、最近は充電式の補聴器も増えてきました。充電式の良さは、やはり使用済みの電池ゴミが出ないということでしょうか。就寝時に充電器に差し込み、起床時に取り出してそのまま装用すればよいので楽でもあります。ただ、震災などで充電できない状況になったらどうしよう、出先で充電がきれたらどうしよう、と考えてボタン電池の補聴器を選ばれる方もいらっしゃいます。充電式の方が電池式より、若干価格が高いかな、種類がまだ少ないかな、という印象もあります。

岐路 ⑤ : 装用耳

両耳から聞けば、四方からくる声や音を聞き取れるかもしれない…。どこから音がしたか、誰が話したか分かりやすいかも…。でも、両耳に補聴器をすとうとうしさが増すかもしれない、管理も面倒だし、価格も高くなる…。両耳装用、片耳装用、それぞれに利点、欠点があります。個々の聴力や生活状況も考慮して検討します。

カスタネット通信8月号は、いろいろ考え選択しながら進まなければならない、補聴器適合のお話でした。実は「試聴開始」のスタート前にも耳鼻科を受診するか否か、試聴をするか否かの岐路 ⑥ があります。補聴器適合を含むペイシエント・ジャーニーには「行動変容」が関わってきます。「行動変容」についてはクリニックの壁のポスターやテレビの下のパンフレット「きこえと補聴器」で説明しています。ぜひご覧ください。

プラモデル



ST室1にガンダムが出現しました！STに通っているRくんが制作した「1/48 RX-78F00 ガンダム」で、GUNDAM FACTORY YOKOHAMA限定品だそうです。関節を動かして、様々なポーズをとれるそうですが、倒れたら大変なので安定感のある片膝立ちで飾ってあります。

ガンダムといえば10年以上前にお台場に見に行きましたが、ST室のガンダムを48倍すると、あの大きなガンダムになるのですね。